

令和5年6月末の在留外国人数は、約322万人（出入国在留管理庁ホームページ）となっており、前年末に比べると、4.8%増加し、過去最高を更新しています。

また、令和5年7月時点の訪日外国人数は232万人を超え（日本政府観光局ホームページ）、インバウンド需要が再び高まってきています。

この研修では、今後ますます外国人と接する機会が増えると考えられる消防職員を対象に、非常時において外国人を救援救助する活動が迅速・的確に行えるよう、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、そのために必要な知識や方法を学びます。

受講を希望される場合は、**令和6年2月5日（月）**までに「派遣人数計画書」を [nenkan@jiam.jp](mailto:nenkan@jiam.jp) へメールにてお送りください。申込手続きの詳細は、「令和6年度研修計画」をご参照ください。

## 消防職員コース～非常時における外国人とのコミュニケーション～

（日程） 5月8日（火）～5月24日（金） 17日間

（内容）

- ・自治体の危機管理
- ※予定
- ・異文化理解
- ・地域の国際化と多文化共生
- ・自治体の事例紹介（外国人への情報提供等）
- ・リスクコミュニケーション
- ・外国人観光客への対応
- ・施策立案演習
- ・語学研修

共通：英語

選択：中国語又はポルトガル語 など

（対象） 消防職員（自治体の防災担当職員含む）

（受講経費） 概ね78,000円

（予定人数） 30名



▲ ボイストラを使用した演習の様子



▲ 英語でリスクコミュニケーション実践の様子

### ■ コースの特長

- 語学授業については、受講者の語学レベルに応じた少人数のクラス編成を行いますので、安心して学ぶことができます。
- ロールプレイを取り入れて、けがをした外国人に英語で様子を確認するなど、実際の状況を想定して再現することにより、生きた英語、使える英語が体得できます。
- 第二外国語として、中国語とポルトガル語の2言語から、地域の事情に即した言語を選択し、それぞれの言語の基礎を学びます。
- 講義や演習等を通して、全国各地の消防職員と意見交換をしながら、議論を深めることができます。
- JICA（国際協力機構）からの研修生を受け入れる際にも、このコースの修了者が活躍されています。

### ■ 参加者の声

- 自分自身の文化や考えが当たり前ではないという事に改めて気づかされ、語学力があるに越したことはないが、それ以外にもコミュニケーションをしていく上で引き出しを増やしていかないといけないと感じた。
- 119通報時、外国人でも自信を持って聴取できるようになった。

詳しくはホームページをご覧ください。（<https://www.jiam.jp>）

【問い合わせ先】（公財）全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所 教務部  
〒520-0106 滋賀県大津市唐崎二丁目13番1号 電話(077)578-5932